

科学の不思議を学ぶ

科学実験教室・おもしろサイエンス



協会の先生方、後方右から3人目が高島理事長

対馬市の中学生に、身近な素材を使った科学実験を体験してもらい、科学に対する興味を持ってもらうことや環境問題の理解をしてもらうため、財団法人九州環境管理協会（理事長・高島良正九州大学名誉教授）主催の「科学実験教室・おもしろサイエンス」が、10月5日に雑知中学校で、

6日には豊玉中学校で開催され、両校で224名の生徒が科学実験を体験しました。

協会では、最近、学校での実験が少なくなり、特に離島に住む子どもたちが科学実験に接する機会が少ないことから、九州各地で年間5〜6ヶ所の実験教室を開催しています。対馬市では、昨年、敵原中学校と久田中学校の生徒195名が体験し、来年までの3年間で7校の教室が計画されています。

科学実験教室では、午前中、環境中の天然放射能を見つめる実験、海や川の水質を調べる実験、くだものや太陽で電気を起こす実験、液体窒素を使いマイナス200度の世界の体験と物質の状態変化を探る実験が行われました。

午後からは、慣性の法則の実験では、CDのコマ回しやゴルフのピン落とし、アルミ

缶を使った大気圧の実験、この原理の実験では、大根やにんじんを使って力のつり合いを調べました。また、パスカルの三角形を使った確率のゲームやハノイの塔を使った指数のゲームも行いました。

生徒たちは、どの実験にも真剣な表情で、それにとても興味深く取り組んでいました。また「放射線の飛ぶ方向は決まっていますか」の質問もあるなど充実した有意義な教室だったようです。講師の先生方も「対馬の子どもたちはまじめで、目がきらきら輝いている。指導していて楽しい」と感想を述べていました。

今回の実験教室で、雑知中、豊玉中両校の生徒は、自分たちが実際に経験する「実験」で、日ごろは取り付きにくく苦手な化学・物理・数学の知識を理解することができたようで、生徒の感想文の一例を紹介しますが、感想文の中で日ごろ体験できない実験を通じて、科学に興味がいいたという感想が多く、貴重な体験になったようです。

雑知中



パスカルの三角形で確率のゲーム



- 200℃を体験



くだもの電池で音楽



てこの原理を学ぶ
うまくつりあうかな

科学実験教室の感想（抜粋）



雞知中学校 2年B組
原田 拓

僕が印象に残った実験は、放射線を目で見る実験でした。ウィルソンの霧箱という道具を使い、懐中電灯を斜めに照らして放射線を見するという実験です。懐中電灯で照らすと飛行機雲のように放射線が無数に広がり幻想的でした。

それと液体窒素の実験も印象に残りました。マイナス196の液体窒素に、バナナ、ゴム、花などを入れるとどうなるかという実験です。ゴムを入れると入れた形のまま固まり、それを強く握るとパキンと割れてしまいました。バナナは釘が打てるくらいに硬くなり、花も硬くなって花びらを握るとバラバラになってしまいました。

今日いろいろな実験で、普段は見ることも経験できないことも体験できてとても楽しかったです。また機会があったら実験教室を開いて欲しいと思いました。



雞知中学校 2年C組
柚原桃子

今日の実験で楽しかったことは、放射線の実験とコマの実験のところでした。放射線の実験では、放射線を目で見たことが印象に残りました。それと放射線は、人の体からも出ていることにびっくりしました。他にも岩や昆布、肥料からも出ていました。私は放射線が体に悪くて、怖いものだと思っていましたが、ある程度の放射線なら浴びても大丈夫だし、いつも放射線を私たちが浴びていることも知りました。

コマの実験では、慣性の法則を学びました。ゴルフのピンをビール瓶の中に入れる実験で、最初はうまく入りませんでした。慣れてくると入るようになって19回も入れることができて嬉しかったです。

私は理科がとても好きです。理由は、自然なこと、目に見えないことが分かるからです。特に興味があるのは、人体の構造や気候などです。私の将来の夢は、人間のせいで壊れた環境を元にもどし、昔のように地球が人間や動物が住みやすい環境を作りたいです。欲張りだけど、そういうことも調べて何かやりたいです。



豊玉中学校 3年B組
菅沼沙織

普通の理科では体験できない色々な実験ができました。特に、液体窒素の実験は楽しくできました。それと大気圧の実験では、アルミ缶がつぶれる瞬間の手触りを憶えています。慣性では、勉強したことを、身をもって理解することができました。ゴルフのピンがピンの中に入るときはとても嬉しかったです。水質の酸性度実験では、各自で水を取ってきて調べました。川の水はさほど汚くなく中性でした。CO₂測定では、見てすぐ分かるので、とても分かりやすかったです。そこで、ごみなどは分別して捨てるべきだと思いました。このような体験ができてとても嬉しかったです。ありがとうございました。



豊玉中学校 3年B組
津村秀人

今日の実験教室では、たくさんの実験があり、よい体験ができてとても良かったです。準備するものが多く、忘れないように気をつけたけど、ほとんど学校などで準備されていたので、楽しく実験ができました。

実験も、てこの原理や大気圧、慣性の法則を利用したもので、とても楽しく勉強になることばかりでした。一番印象に残っているのは、大気圧の実験と液体窒素の実験が面白かったです。今日いろいろな実験で、たくさんを知ることができて本当に良い勉強になりました。



ピンがうまく入るかな？



液体チツソに花を



水質検査

「つしまブランド化推進協議会」発足

「対馬のブランド化推進」

10月13日、市内のホテルで、対馬交流特区推進本部第2回会議が開催され、さらに対馬への交流人口拡大を図るための方策と、対馬支庁が中心となって進めていた推進本部から、対馬市が中心となって対馬の活性化を図る「つしまブランド化推進協議会」への移行について協議が行われました。

ば新鮮な魚が食べることが出来るよう供給体制の整備や、お土産としてかえる販売所の整備の要望、体験型観光に対応できる施設やインスタクターの確保の必要性、農林漁業や商工業、行政などが連携し一体になって対馬の振興を進めたらどうかなど活発に意見が出されました。

対馬交流特区推進本部は、対馬支庁長を本部長に、対馬の魅力ある地域資源の活用と交流人口の受け入れ体制の整備、韓国人観光客の誘致促進のため、平成15年9月8日に設置されていきました。しかし、さらなる交流人口拡大を図るため、対馬市が中心となって、「対馬」自体のブランド化を進め、魅力ある対馬の整備に努めるため、推進本部からさらに実行性を高めるため「つしまブランド化推進協議会」へと移行することになりました。

また、協議会の事務局（対馬市総務企画部企画課）から、対馬のブランド化を進める事業に対して、「対馬市つしまブランド化推進事業補助金」について説明があり、しまのブランド化に向けた具体的な施策が打ち出されました。

《委員の紹介》

会長 松村良幸（対馬市長）
副会長 清田俊一（対馬支庁長）

委員 長島耕一（対馬教育事務所長）、米倉源蔵（対馬高校校長）、長町忠一（対馬観光物産協会会長、対馬市商工会会長）、高司昭男（財・対馬国際交流協会理事長）、吉野栄二（対馬農業協同組合組合長）、大原利幸（対馬島全

会議では、対馬のブランド化を進めるため、対馬に行け

漁業協同組合長会会長）、扇次男（対馬森林組合組合長）、阿比留松栄（対馬市生活研究グループ連絡会会長）、江口栄（長崎県旅館同業協同組合対馬支部長）、島本有朗（対馬社交飲食生活衛生同業組合組合長）、伊藤 浩（株）対馬交通代表取締役）、平尾利光（対馬地区タクシー協会会長）、黄 聖 喆（株）ジャパン大亜対馬支店長）、真崎龍介（株）対馬国際ライン代表取締役）、坂本好徳（NPO法人「国境の島・つしまネットワーク」代表理事）
監事：河西 宏（十八銀行対馬支店長）



市長の動き

《10月》

1日 赤い羽根空の第1便



1～2日

全国離島振興協議会
務（東京）

4日 過疎計画協議

5日 対馬市議会第3回定例会

6日 消防庁長官視察同行

7日 対馬市老人クラブゲートボール大会



8～9日

長崎県市長会（平戸）

10～11日

しまづくりシンポジウム（福岡）

12日 行財政改革会議、四季の会

13～14日

新エネルギー協議（佐賀）

17日 対馬ジュニア陸上競技選手権大会



18日 県水産部へ陳情（長崎）

19～22日

全国離島振興協議会正副会長会議、理事会（北海道・礼文、利尻）

25日 「市長と語る」収録

26～28日

港湾整備振興全国大会（東京）

29日 対馬島戦没者追悼式

「みんな安全 たっしや塾」

地域の方に、交通事故やオレオレ詐欺などについて理解してもらい、「みんなで安心して暮らせる街をつくろう」のスローガンで、対馬北地区の防犯協会、交通安全協会、警察署主催の「みんな安全 たっしや塾」が、10月16日、17日の2日間、上対馬町、上県町、峰町支所管内で開催されました。

オープニングでは、上対馬町のグリーンキッズの、かわいいパントワラー演技が行われ、続いて腹話術による交通安全講話、寸劇によるオレオレ詐欺等の被害防止講話が行われました。

とくに寸劇では、警察署員によるオレオレ詐欺の実態が演じられ、老人が巧みな話術に引っかかり結局だまされてしまう迫真の演技に、観客は見入っていました。

プログラムの最後には、長崎県警音楽隊による演奏会、また県警カラーガード隊によるドリル演技が披露され、音楽隊による迫力ある演奏と力

ラーガード隊の華麗な演技に、会場に詰めかけた多くの観客から、惜しみない拍手が送られていました。



高校生福祉なるほどゼミナール

福祉・医療系への進学又は就職を希望している高校生を対象に「高校生福祉なるほどゼミナール」が、10月16日と17日の2日間、豊玉町福祉センターで行われ、対馬高校、豊玉高校、上対馬高校の生徒16名が参加しました。

1日目の午前中は、長崎県福祉人材センターの牛込部長が、福祉の仕事は「相手の立場に立って敬う気持ちが大切」と説明し、また、長崎活水大学の徳永幸子先生が「福祉って何」と題して高齢者への理解、関わり方、社会福祉のめざす社会などについて講話しました。午後からは美津島町の対馬養護老人ホームを訪れ、入所のお年寄りと直接ふれあいました。

2日目は、現在、病院や施



対馬養護老人ホーム

設で活躍中の「福祉」「医療」の国家資格取得者の講師から資格の説明や仕事の内容、職場の紹介、どうしたら資格が取得できるのかなどの貴重な体験談を聞きました。

午後からは、特別養護老人ホーム「わたづみ」を訪れ、施設の説明、入所者との楽しい歌やゲームを楽しみました。参加した対馬高校2年生の根津恵美奈さんは「お年寄りが笑いかけてくれるだけでも嬉しかった。別れるときも泣いてくれて、いい体験になった」また、東香奈美さんは「実際にお年寄りに触れ合えたことが一番印象に残った。介護や福祉との関連性をより強く感じ、自分の視野が広がった」と感想を述べてくれました。



特別養護老人ホーム(わたづみ)

消防庁長官来島

10月6日、熊本で開かれる緊急消防救援隊九州ブロック合同訓練への参加のため、九州を訪れていた林省吾消防庁長官が、対馬市消防本部の視察と韓国や中国と向き合った対馬の西海岸の視察のため来島しました。

11時近くに対馬空港に到着した林長官は、その足で対馬市消防本部を訪れ、消防職員を前にして激励のあいさつを行いました。その後昼から、峰町木坂まで海岸線の視察を行い、夕刻から行われる合同訓練のため、16時45分に対馬を離れました。

